

「把」構文」中の“了”について

布 川 雅 英

0. はじめに

これまでの先行研究で「把」構文」を成立させるには、少なくとも述語動詞に“了”や“着”を付加しなければならないことが指摘されている。しかしながら、「把」構文」中の述語動詞に付加された“了”について、意味と役割を総合的に記述している研究は管見の及ぶ範囲では見あたらない。したがって、本稿では「把」構文」中の述語動詞に付加された“了”を考察対象とし、この“了”について、意味と役割を明確にすることを目的とする。このために本稿では次のような方法論を用いる。まず「把」構文」中の述語動詞や“把”の後の成分の意味特徴（本稿では意味特徴について厳密な定義をしない、本稿で用いる意味特徴とは文、節、句、単語、語素のそれぞれのレベルで抽出される意味単位を取りだしたものである）を抽出し、この抽出された意味特徴をもとに論者は「把」構文」の述部の意味構造を仮定する。次に仮定された意味構造と“了”との関わりを記述することにより、「把」構文」中の述語動詞に付加された“了”の意味と役割を明らかにする⁽¹⁾。なお本稿で考察対象とするのは‘(S)+把N+V了’という形式の「把」構文」であり、考察する例は全て先行研究によって取り上げられている例である。

1. 述語動詞に内在する意味特徴と仮定される意味構造

ここでは述語動詞に内在する意味特徴と論者が仮定する意味構造について述べていく。‘(S)+把N+V了’という形式を持つ「“把”構文」の述語動詞は、大きく分けて二つに分類することができる。その第一は「瞬間動詞（非持続動詞）」であり、第二は「持続動詞」である。ではこの二種類の動詞からどのような意味特徴が抽出できるのであろうか。松村教授（1997a：58-59）によると「“死（死ぬ）”や“丟（なくす）”などの瞬間的に完成し得る行為・動作を表し、持続し得る行為・動作を表さない「瞬間動詞」からは【瞬間的完成】【非持続】という意味特徴が抽出でき（以下【 】は意味特徴のことである），“吃（食べる）”のような「持続動詞」からは【始まり】と【持続】という意味特徴が抽出できる」ことが指摘されている。本稿の具体的な考察においてもこの抽出された意味特徴を用いて行きたい。また、松村教授（1997b：58-60）では「“写完（書き終わる）”のような「動作そのもの」と「その動作の結果」からなる形式を現代中国語の動詞の基本（抽象）形式と考え、この形式からは【はじまり+（持続）】と【おわり】という意味特徴が抽出できること」が述べられている。この松村教授の提起を敷衍して論者は意味構造を次のように仮定する。「瞬間動詞」は動詞自身が動作行為の「終わり」を明示できるので、意味構造上の「終わり」の部分に置かれる。また、「持続動詞」は抽出される意味特徴から意味構造の中では「始まり」の部分に置かれる。次の仮定される意味構造を見られたい。

仮定される意味構造

瞬間動詞の意味構造中の位置 <[] [瞬間動詞]>

【終わり】

持続動詞の意味構造中の位置 <[持続動詞] []>

【始まり】

2. 時相と時態⁽²⁾

本稿において用いる「時相」と「時態」という用語は龔千炎(1995)で使用されている。本稿では「時相」の定義を「動詞の表す動作行為の全体の有り様」とする。では具体的な例を用いて「時相」について説明しよう。まず「瞬間動詞」が述語動詞に用いられている“他把自行车丢了(彼は自転車をなくしてしまった)”で考えてみよう。述語動詞“丢(なくす)”は「瞬間動詞」であり、動詞自身が動作行為の「終わり」を明示できるので、抽出される意味特徴は【終わり】である。したがって、動作行為の「終わり」が明示されることによって“丢”は“丢”のみで「動詞の表す動作行為の全体の有り様」がとらえられる。つまり、「瞬間動詞」の“丢”は“丢”だけで「時相」をとらえることができるのである。次の記述ではく > で示された箇所が「時相」である。

述語動詞“丢”の意味構造と抽出される意味特徴

仮定される意味構造 <[] [丢] >

抽出される意味特徴 【終わり】

次に「持続動詞」が述語動詞に用いられている例の「時相」を考えてみよう。“我把他打了(私は彼を殴った)”という文の述語動詞“打(殴る)”は動作を無限に行うことのできる「持続動詞」である。したがって、“打”からは【始まり】と【持続】という意味特徴が抽出できる。このような意味特徴を内在している動詞は動詞自身で「終わり」を明示することができない。ではどのようにして動作行為の「終わり」を明示するのであろうか。この文の“把”の後の成分“他(彼)”は述語動詞“打”の「対象」であり、“打他”という形式が考えられる。“他”は“把”の後の成分であることから、“他”自身の「明示性」も強くなっている。ゆえに“打”は意味構造上前に置かれ、“他”が後に置かれる。つまり <[打] [他]> という意味構造が仮定され、「動詞の

表す動作行為の全体の有り様」がまとまり、これによって「時相」がとらえられるのである。次の記述では < > で示された箇所が「時相」である。

述語動詞“打”の意味構造と抽出される意味特徴

仮定される意味構造 < [打] [他] >

抽出される意味特徴 【始まり】 【終わり】

次に「時態」について説明する。本稿で用いる「時態」とは「「時相」が整った後で「時相」を時制の上に載せる必須の手段である」と定義する。つまり、「時相」がとらえられた後に、「時態」が付加されるのである。では具体的な例で「時態の“了”」とはどのようなことを説明しよう。上述した「瞬間動詞」の“丟”と「持続動詞」の“打”の例を再度引用しよう。“丟”は“丟”のみで「時相」をとらえることができた。つまり、< [] [丟] > という意味構造が仮定された。「時態の“了”」はこのように「時相」が整った後に付加されるので { < [] [丟] > + “了” } という意味構造が仮定されるのである。このような“了”を本稿では「時態の“了”」とする。また、「持続動詞」の“打”は“打”のみでは「時相」をとらえることができず、動作の対象である“他”を意味構造上動作の「終わり」として考えることによって、「時相」が整うと仮定した。つまり、< [打] [他] > となって時相が整い、これに付加される“了” ({ < [打] [他] > + “了” }) を「時態の“了”」とするのである。

3. 具体的な考察

本節では収集した例の述語動詞を「瞬間動詞」と「持続動詞」に分け、‘(S) + 把N + V + 了’という形式を持つ「“把”構文」を上述のような方法論により具体的に考察し、この形式における述語動詞に付加される“了”の持つ意味と役割を記述して行く。

3.1. 述語動詞が「瞬間動詞」の例

論者が収集した中で「瞬間動詞」が述語動詞として用いられている例は2例である。一つは呂叔湘（1984）の“把日子误了。(1)”であり、さらに一つは刘月华他（1983）の“昨天他把自行车丢了。(2)”である。では例について説明して行く。(1)の述語動詞は“误（機会を逃す）”である。「機会を逃す」という動作は「具体的な動作」ではない。「ある期日や定まった時間、あるいはチャンスを意識的または無意識的に逃してしまう」ことである。つまり、「逃してしまったら、消滅してしまう」ことを表している。このようなことを表す動詞からは【終わり】という意味特徴を抽出することができる。したがって、意味構造上の「終わり」が明確になるために動詞の表す「動作行為の全体の有り様」がとらえられるので、“了”を付加するだけで「把」構文」が成立すると考えられる。このような動詞は動詞自身で動作行為の「終わり」が明示できるので、意味構造は <[] [误]> と仮定され、「時相」が整うのでこれに付加される“了”は「時態の“了”」である。(2)の述語動詞は“丢（なくす）”である。「なくす」という動作は「あるものが自分のところから消失する」ということである。動作も瞬時に終了して、動作の結果も残らない。このような動詞は動詞自身が動作行為の「終わり」を明示できるので、抽出される意味特徴は【終わり】である。つまり、「瞬間動詞」の“丢”は“丢”だけで「時相」をとらえることができるのである。したがって、<[] [丢]> という意味構造が仮定され、これに付加される“了”は「時態の“了”」である。次の例と述語動詞の意味構造および全文の意味特徴を見られたい。

(1)把日子误了。(吕1984)

(期日に遅れた)

(1)の述語動詞 “误” の意味構造

{<[] [误] >+時態の“了”}

【終わり】

(1)の全文の意味特徴

[把] 格表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【処置】
[日子]	【確定的】【間接的終わり】
[誤]	【非持続】【終わり】
[了]	「時態」
〈文全体の意味特徴〉	【処置】
(2)昨天他把自行车丢了 (刘他1983)	
(昨日彼は自転車をなくしてしまった。)	
(2)の述語動詞“丢”の意味構造	
{<[] [丢] >+時態の“了”}	
【終わり】	
(2)の全文の意味特徴	
[他]	【現象主】【元の所有者】【影響の受け取り手】
[把] 格表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【影響】
[自行车]	【確定的】【間接的終わり】
[丢]	【非持続】【終わり】
[了]	「時態」
〈文全体の意味特徴〉	【影響】

3.2. 述語動詞が「持続動詞」の例

では次に「持続動詞」が述語動詞に用いられている例を挙げよう。ここでは論者が収集した例から「持続動詞」を四つに分類し記述する。その第一は「持続動詞」の表す動作行為が「働きかけ」という意味を内在させている「持続動詞」である。たとえば、“打（殴る）”“撕（引き裂く）”“折（折る）”である。この動詞は「ある対象に対してその動作を行うことにより、その対象に変化や影響を与える」という意味を表している。その第二は「持続動詞」の表す動作行為が「消失」という意味を内在させている「持続動詞」である。

たとえば“卖(売る)”“喝(飲む)”“吃(食べる)”“洗(洗う)”である。このグループの動詞は「ある対象に対してその動作を行うことにより、対象が消失する」という意味を表している。その第三は「持続動詞」に内在する「処置性」が弱いと考えられる「持続動詞」である。たとえば“说(話す)”である。この動詞は「ある事について述べる」ということを表しており、「対象に影響や変化を与えること」や「対象を消失させる」ということは表していない。その第四は「持続動詞」の表す動作行為が「獲得」や「付着」という意味を内在させている「持続動詞」である。たとえば，“搭(組んで作る)”“穿(着る)”“捡(拾う)”“买(買う)”である。このグループの動詞は動作の対象物が「無から有へと変化すること」を表しており、通常「把」構文」の述語動詞には用いられないとされる動詞である。

では「持続動詞」の第一のグループの動詞に“了”が付加された例について説明をしよう。次の(3)は汤廷池(1979)で取り挙げられている例である。汤廷池はこの例に対して「?」をつけて、この例の適格性に疑問があることを表示している。では、なぜ汤廷池はこの例の適格性に対して疑問を感じているのであろうか。汤廷池はその理由を説明していない。そこで論者の考えを次に述べよう。述語動詞“打(殴る)”は「持続動詞」である。このような動詞から抽出できる意味特徴は、すでに述べているように【始まり】と【持続】である。このような意味特徴を持つ動詞を述語動詞に用いて「把」構文」を成立させるには、述語動詞の後に補語を付加して動詞の表す動作行為の結果や動作行為の様態を明確にするか、あるいは“把”の後の成分の前に数量詞を付加して、“把”の後の成分の数量を明示することにより、動作行為の「終わり」を明確にする必要がある。しかし、“打了”だけでは「殴った」という意味を表すだけで、“把”の後の成分“他”を「動作行為の結果変化させる」という意味や「有から無への変化」という意味を明確に表すことは難しいと汤廷池は考えたのではないか。したがって、汤廷池は“我把他打了”という文の成立の適格性に疑問を持ったと考えられる。しかし、論者がインフォーマントに確認したところ、“我把他打了”は成立が可能であるとの回答を得た(刘力, 徐前)。本稿では“我把他打了”を成立可能な例として考察していく。

述語動詞“打（殴る）”は動作を無限に行うことのできる「持続動詞」である。したがって，“打”からは【始まり】と【持続】という意味特徴が抽出できる。このような意味特徴を内在している動詞は動詞自身で「終わり」を明示することができない。この例の場合動作の対象が明示的な“他”であり，“打他”という形式が考えられる“打他”全体から【始まり】と【終わり】という意味特徴が抽出され、動詞の表す「動作行為の全体の有り様」が明確になり、「時相」が整うのである。ゆえに〈[打] [他]〉という意味構造が仮定され、これに付加される“了”は「時態の“了”」であると結論づけられる。次の例と述語動詞の意味構造および全文の意味特徴を見られたい。

(3)我把他打了。(汤1979)

(私は彼を殴った。)

(3)の“打他”の意味構造

{〈 [打] [他] 〉+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

(3)の全文の意味特徴

[我]	【動作主】
[把] 格表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【処置】
[他]	【確定的】 【終わり】
[打]	【持続】 【始まり】
[了]	「時態」
〈文全体の意味特徴〉	【処置】

(4)は“撕（引き裂く）”が述語動詞である。「引き裂く」という動作は「あるものをもとの状態から、異なる状態へ変化させる」ことである。“撕”は「持続動詞」であるため“撕”のみで動作行為の「終わり」を明示することはできない。この例における“把”の後の成分“我的生字本”は範囲が限定された明示的な成分である。したがって，“撕我的生字本”という形式が考えられ、

動詞の表す動作行為の量が限定され、動作の「終わり」が明示される。このため“撕我的生字本”全体で【始まり】と【終わり】という意味特徴が抽出され、それによって「動作行為全体の有り様」がとらえられるのである。つまり、〈[撕][我的生字本]〉という意味構造が仮定され、「時相」が整いこれに付加される“了”は「時態の“了”」である。次の例と述語動詞の意味構造および全文の意味特徴を見られたい。

(4) 妹妹把我的生字本撕了 (李1993)

(妹は私の単語帳をやぶいてしまった。)

(4)の“撕我的生字本”の意味構造

{〈[撕][我的生字本]〉+時態の“了”}
【始まり】 【終わり】

(4)の全文の意味特徴

[妹妹]	【動作主】
[把] 格表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【処置】
[我的生字本]	【確定的】【終わり】
[撕]	【非持続】【終わり】
[了]	「時態」
〈文全体の意味特徴〉	【処置】

次に第二の「持続動詞」例について説明して行く。(5)の述語動詞は“喝(飲む)”である。この動詞は「ある飲料を飲むことにより、その飲料がだんだんなくなる」ことを表している。また「飲む」という動作は「持続する動作」である。このような動詞からは【始まり】と【持続】という意味特徴が抽出できる。したがって、このような「持続動詞」に“了”を付加しただけでは通常「把」構文」を成立させることはできない。この例を成立させるには述語動詞の後に補語をつけて動詞の表す動作行為の結果や動作行為の様態を明確にするか、あるいは“把”の後の成分“茶”の前に数量詞を付加して“茶”

の数量を明示することにより、動作行為の「終わり」を明確にする必要がある。しかし、『現代汉语八百詞』で(5)を成立可能として取り挙げているのはなぜであろうか。その理由を次に考えてみよう。その理由の第一は“喝”という動詞に内在する意味から考えられるのではないか。上述のように「飲む」という動作が表していることは「ある飲料を飲むことにより、その飲料がだんだんなくなる」ことである。したがって、“喝”だけでその動作の対象物の「有から無への変化」を予測することができる。その理由の第二は“把茶”の“茶”は形式上は限定する成分がついていないが、文脈により「明示的なお茶」で読みとれ、概念上は「範囲が限定されたお茶」なのである。この例の場合“喝茶”全体で【始まり】と【予測される終わり】の意味特徴が抽出されるとともに「対象物」である「茶」を明示することにより、【予測される終わり】が【実際の終わり】に転化する。なぜなら永遠に「明示された茶」を飲み続けることは常識的に不可能であるからである。このように考えることにより、“喝茶”全体で動詞の表す「動作行為の全体の有り様」が明確になり、つまり、「時相」が整うのである。ゆえに〈[喝] [茶]〉という意味構造が仮定され、これに付加される“了”は「時態の“了”」であると結論づけられる。次の例と述語動詞の意味構造および全文の特徴を見られたい。

(5)把茶喝了

(お茶を飲んだ)

(5)の“喝茶”の意味構造

{〈 [喝] [茶] 〉+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

(5)の全文の意味特徴

[把] 格表示機能からの意味特徴

【対象】

全文の意味から帰納される意味特徴

【処置】

[茶]

【確定的】【間接的終わり】

[喝]

【持続】【始まり】

[了]

「時態」

〈文全体の意味特徴〉

【処置】

次に(6)を説明しよう。(6)は述語動詞に「持続動詞」の“吃(食べる)”が用いられている例である。この例は述語動詞“吃”に“了”が付加されただけで成立している。ここでもう一度成立の理由を考えてみよう。その理由の第一に“吃”という動詞に内在する意味を考えてみる。「食べる」ということは「食べることにより、対象物がだんだんとなくなる」ことを表している。したがって、“吃”は「持続動詞」であるが“吃”の動作の対象物の存在を考えると、「有から無への変化」が読み取れ、ゆえに“吃”という動詞にある種の「処置」概念が内在していると考えられるのである。その理由の第二は“吃”は「持続動詞」であるので、【始まり】と【持続】という意味特徴が抽出できるが、“吃了”だけで動詞の表す動作行為の「終わり」を明示することはできない。しかし、(6)では“把”の後の成分の“那个苹果”は“那(一)个(あの一つの)”という「指示」と「数量」の構造から成り立っている。したがって、この例における“那个苹果”は明示的な成分であることが理解できる。数量が限定されることにより、動詞の表す動作行為の量が限定され、動作の「終わり」が明示される。このため“吃那个苹果”全体で【始まり】と【終わり】という意味特徴が抽出され、それによって「動作行為全体の有り様」がとらえられるのである。つまり、〈[吃] [那个苹果]〉という意味構造が仮定され、「時相」が整いこれに付加される。“了”は「時態の“了”」である。次の例と述語動詞の意味構造および全文の意味特徴を見られたい。

(6)我把那个苹果吃了 (李1993)

(私はリンゴを食べてしまいました。)

(6)の“吃那个苹果”の意味構造

{〈 [吃] [那个苹果] 〉+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

(6)全文の意味特徴

【我】

【動作主】

[把] 各表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【処置】
[那个苹果]	【確定的】 【終わり】
[吃]	【持続】 【始まり】
[了]	「時態」
〈文全体の意味特徴〉	【処置】

では「持続動詞」の第三類の動詞に“了”が付加された例について説明しよう。次の(7)は「持続動詞」の“说(話す)”が述語動詞に用いられる例である。“说”は「持続動詞」であるから、他の「持続動詞」と同様に抽出できる意味特徴は【始まり】と【接続】である。したがって、“说了”だけでは動詞の表す動作行為の「終わり」を明示することはできない。しかし、(7)は“说了”だけで「“把”構文」が成立している。これはなぜであろうか。次にその理由を考えてみよう。この動詞は「ある事について述べる」ということを表しており、「対象に影響や変化を与えること」や「対象を消失させる」ということは表していない。この例の場合“说”に内在する意味を考えてみても、“喝”や“吃”のように「有から無への変化」ということを読み取ることはできない。したがって、この例ではまず“把”の後の成分について考えてみよう。“把”の後の成分は“李晶的事(李晶のこと)”である。つまり、「一般的なこと」ではなく「李晶に関すること」ということを表しており、“事”の「範囲が限定」されている。動作の対象物である“把”の後の成分が限定されることにより、動詞の表す動作行為の動作量が間接的に限定されるのである。このことにより“说李晶的事”という形式が考えられ、ここから抽出される意味特徴は【始まり】と【終わり】である。つまり、〈[说][李晶的事]〉という意味構造が仮定され、「時相」が整いこれに付加される“了”は「時態の“了”」である。次の例と述語動詞の意味および全文の意味特徴を見られたい。

(7)我鼓起勇气，把李晶的事说了。(杉村1994)

(私は勇気を奮い起こして、李晶のことを話した。)

(7)の“说李晶的事”の意味構造

{< [说] [李晶的事] >+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

(7)の全文の意味特徴

[我]	【動作主】
[把] 各表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【処置】
[李晶的事]	【確定的】 【終わり】
[说]	【持続】 【始まり】
[了]	「時態」
<文全体の意味特徴>	【処置】

最後に「持続動詞」の第四類の動詞に“了”が付加された例について説明をしよう。このグループの動詞に内在する意味は「取得（獲得）」や「付着」であり、動作の対象物の存在が「無から有への変化」を表し、通常このような動詞に“了”を付加しただけでは、「把」構文」の述語動詞には用いられないとされる動詞である（李臨定1993：272）。しかし、先行研究の中には「把」構文」中にこれらの動詞を用いても「把」構文」として成立が可能であると説明している例がある。本稿では成立が可能とされる例について考察をして行く。次の(8)は宋玉柱（1986：113）で取り挙げられている例である。この例の述語動詞は“收（取り入れる）”と“拾（拾う）”である。このような動詞に内在する意味は「無から有への働きかけ」であり、論理上「無」に対して処置を行うことができない。したがって、通常は「把」構文」に用いることはできないと考えられる。宋玉柱（1992：123－124）では「「把」構文」の動詞は「取り除く、取り去る」という意味を表す動詞が使われ、「獲得」や「付着」という意味を表す動詞を使うことができない。」と述べており、“把手绢拾了（ハンカチを拾った）”は成立しない例として挙げている。しかし、論者がインフォーマントに確認したところ、(8)は成立が可能であるとの回答を得た（刘力，徐前）。ただし、この例の“收了”と“拾了”の表す意味について、

インフォーマントによって解釈の相違が表れた。あるインフォーマントは“收了”と“拾了”を「取り入れ終わった、拾い集め終わった（済ませた）」という意味で読みとれるとのことであつたが(刘力)、別のインフォーマントによると「取り入れた」と「拾い集めた」で読みとれるとのことであつた。また、このインフォーマントによると(8)は成立が可能であるが、通常ならば後にさらに文が続いて成立するとの回答を得た(徐前)。

次に論者の考えを述べよう。(8)の述語動詞“收”と“拾”は共に「持続動詞」である。したがって、他の「持続動詞」と同様にこれらの動詞から抽出できる意味特徴は【始まり】と【持続】である。ゆえに、このままでは意味上の「終わり」が明示されず、「時相」をとらえられないので、このような動詞に「時態の“了”」を付加することすることはできない。しかし、(8)は“收了”“拾了”だけで「“把”構文」が成立している。では次にその理由を考えてみよう。まず、“把”の後の成分について考えてみよう。この例の“把”の後の成分は“庄稼(農作物)”と“棉花(綿)”である。形式上、“庄稼”と“棉花”は「数量」構造や範囲が限定される「限定」構造が付加していない。また、“庄稼”と“棉花”は「農作物というもの、綿というもの」という「総称」で読み取ることもしない。この場合、“庄稼”と“棉花”は文脈により「範囲が限定されている農作物と綿」であると考えられる。つまり、意味上(概念上)「不特定の農作物と綿」ではないのである。“把”の後の成分をこのように考えることにより、動作の対象物が確定され、動詞の表す動作行為の「終わり」が間接的に示される。したがって、「“把”構文」という形式の中で<[收][庄稼]>と<[拾][棉花]>という意味構造を仮定することができ、【始まり】と【終わり】という意味特徴が抽出され、「動作行為の全体の有り様」がとらえられるのである。ゆえに、「時相」が整いこれに付加される“了”は「時態の“了”」であると結論づけられる。次の例と述語動詞の意味構造および全文の意味特徴を見られたい。

(8)社员们把庄稼收了，把棉花拾了。(宋1986)

(人民公社の社員達は農作物を取り入れ、綿を拾い集めた。)

(8)の“收庄稼”と“拾棉花”の意味構造

{< [收] [庄稼] >+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

{< [拾] [棉花] >+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

(8)の全文の意味特徴

[社员们]	【動作主】
[把] 格表示機能からの意味特徴	【対象】
全文の意味から帰納される意味特徴	【取得】
[庄稼 (棉花)]	【確定的】 【間接的終わり】
[收 (拾)]	【持続】 【始まり】
[了]	「時態」
<文全体の意味特徴>	【取得】

次の(9)は「取得」という意味を内在させる“买 (買う)”が述語動詞に用いられて成立している例である。ではなぜ(9)は成立が可能であるのか、その理由を考えてみよう。この例では“把”の後ろの成分“白糖 (砂糖)”に、“两斤”という数量詞が付加されており、「“两斤 (1 キログラム)”の砂糖」という意味になる。したがって、「砂糖の量」が確定している。動作の対象物の量が確定するということは、つまり「買い物という動作」の「終わり」が明示されることである。このため述語動詞“买”は「持続動詞」であるが、<[买] [两斤白糖]> という意味構造全体で【始まり】と【終わり】という意味特徴を抽出できる。ゆえに、「時相」が整いこれに付加される“了”は「時態の“了”」であると結論づけられる。次の例と述語動詞の意味構造および全文の意味特徴を見られたい。

(9)我已经把两斤白糖买了。(王还1984)

(私はもうすでに1 キログラムの白砂糖を買った。)

(9)の“买两斤白糖”の意味構造

{< [买] [两斤白糖] >+時態の“了”}

【始まり】 【終わり】

(9)の全文の意味特徴

[我] 【動作主】

[把] 格表示機能からの意味特徴 【対象】

全文の意味から帰納される意味特徴 【取得】

[两斤白糖] 【確定的】 【終わり】

[买] 【持続】 【始まり】

[了] 「時態」

文全体の意味特徴 【取得】

4. おわりに

本稿は‘(S)+把N+V了’という形式の「“把”構文」に用いられる“了”について論者なりの方法論によって考察を行った。考察の結果、述語動詞が「瞬間動詞」の場合でも、また「持続動詞」の場合でも、「時相」が整うことによって“了”が付加され、このような“了”は「時態の“了”」であると結論づけることができた。さらにこの考察を通じて「“把”構文」の成立の可否についても理解を深めることができた。つまり、「“把”構文」が成立するには動詞句に【始まり】と【終わり】(文によっては【終わり】のみ)という意味特徴がそろふこと(「時相」が整うこと)が必須ではないかということである。これは動詞句で「時相」が整うことで「処置」が明確になり、したがって、「時相」が整う動詞句を持つ「“把”構文」は成立が可能となるのではないかと予想されるのである。最後ではあるが本稿の執筆には様々な先生方の御指導御助言を賜り完成することができた。在学中からきめ細かな御指導を賜った松村文芳教授には心から謝意を表したい。また、博士論文の審査員である望月眞澄教授、山口建治教授、彭国跃助教授、東京大学教授の木村英樹先生からも審査の際に様々な御助言を頂いた。心から謝意を表したい。さらにインフォーマントとして御協力頂いた刘力先生と徐前先生、及び大学院生

の加藤宏紀さんからも貴重な意見を頂いた。重ねて感謝申し上げる。

注釈

- (1) このような方法論を考えついたのは松村教授 (1997a) (1997b) を参考にしたほかに、松村教授から直接御教授いただいたからである。
- (2) 加藤宏紀 (1999) では「時相」と「時態」について詳細な考察を行っている。

参考文献

- 龚千炎, 1995『汉语的时相 时制 时态』, 商务印书馆
- 加藤宏紀, 1999, 「現代中国語の動詞結果補語構文の意味研究」, 神奈川大学 大学院修士論文
- 木村英樹, 1981, 「「付着」の“着 zhe”と「消失」の“了 le”」, 『中国語』, No.258, pp.24-27, 大修館書店
- 李临定, 1993, 『中国語文法概論』(宮田一郎訳), 光生館
- 刘月华 他, 1983, 『实用现代汉语语法』, 外语教学与研究出版社
- 刘月华, 1988, 「动态助词“过2”“过1”“了1”用法比較」, 『语文研究』, 第1期, pp.6-16
- 吕叔湘主编, 1980, 『现代汉语八百词』, 商务印书馆
- 吕叔湘, 1984, 「把字用法的研究」, 『汉语语法论文集(增订本)』, pp.176-199, 商务印书馆
- 松村文芳, 1997a, 「結果補語(動詞)を持つ動詞の意味特徴」, 『中国語』, 10月号, pp.58-60, 内山書店
- 松村文芳, 1997b, 「結果補語になる動詞の意味特徴」, 『中国語』, 11月号, pp.58-60, 内山書店
- 宋玉柱, 1986, 『现代汉语语法十讲』, 南开大学出版社
- 宋玉柱, 1992, 『现代汉语语法基本知识』, 语文出版社
- 杉村博文, 1994, 『中国語文法教室』, 大修館書店
- 汤廷池, 1979, 『国语変形语法研究』, 学生书局
- 王还, 1984, 『“把”字句和“被”字句』, 上海教育出版社
- 王还, 1985, 「“把”字句中“把”的宾语」, 『中国语文』, 第1期, pp.48-51